

[分類]	普及技術
[成果名]	ハクサイ黒斑病防除にシグナム WDG が有効である
[要約]	ハクサイ黒斑病防除にシグナム WDG の 1,500 倍液を散布する。
[担当]	野菜花き試験場佐久支場
[部会]	病虫部会

1 背景・ねらい

ハクサイ黒斑病は生産現場で常発する重要病害である。本病を防除するため効果の高い薬剤を選定するとともに、はくさいに対する薬害の有無を検討した。試験は平成 20 年および 21 年に実施し、平成 24 年に農薬登録されたため、今回普及技術とする。

2 成果の内容・特徴

(1) ハクサイ黒斑病防除にシグナム WDG の 1,500 倍液を散布する。

農薬登録内容

シグナム WDG

[一般名及び成分含有量] ピラクロストロビン 6.7% (FRAC コード^注:11)、
ボスカリド 26.7% (FRAC コード^注:7)

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない [魚毒性] C類相当

[対象作物に対する適用登録状況（平成 25 年 10 月 1 日現在 JPP-NET 確認）]

作物名	適用病害名	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法	ピラクロストロビンを含む農薬の使用回数	ボスカリドを含む農薬の使用回数
はくさい	黒斑病 白斑病 べと病 白さび病	1,500～ 2,000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内	3 回以内

注)FRAC コードとは FRAC（殺菌剤耐性菌対策委員会）が定める殺菌剤の作用機構による分類で、同じコードは同一系統を表す。詳細は Japan FRAC のホームページ (<http://www.jfrac.com/>) を参照する。

3 利用上の留意点

- (1) 本剤はストロビルリン系殺菌剤のピラクロストロビンと酸アミド系殺菌剤のボスカリドとの混合剤である。ストロビルリン系薬剤は特に薬剤耐性菌の出現が懸念されることから、連用は避け異なる系統の薬剤とローテーションで使用する。
- (2) 水産動物に強い影響を及ぼすので、河川、湖沼および養殖池に飛散、流入する恐れのある場所では使用しない。
- (3) 蚕に対して影響があるので、桑葉にかからないように注意する。
- (4) 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

- (1) シグナム WDG のハクサイ黒斑病に対する試験を佐久支場内圃場で実施した。平成 20 年は中発生条件下の試験となった。本剤の 1,500 倍液は、対照薬剤のダコニール 1000 の 1,000 倍液と比較して優る防除効果であり、無処理と比較して高い効果が認められた。薬害は認められなかった（表 1）。

表1 ハクサイ黒斑病に対するシグナムWDGの防除効果（平成20年、野菜花き試験場佐久支場）

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株率 (%)	発病度 ^{a)}	防除価 ^{b)}	薬害
シグナムWDG	1,500	24.0	0.0	0.0	100	なし
ダコニール1000	1,000	24.0	8.3	2.8	91.9	なし
無処理		24.0	51.4	31.5		

a)：発病度＝ Σ （発病指数×株数）×100／（3×調査株数）

程度別発病指数 0：発病を認めない、1：病斑が1～10個形成されている、2：病斑が11～20個形成されている、3：病斑が21個以上形成されている

b)：防除価＝（無処理区の発病度－処理区の発病度）×100／無処理区の発病度

試験場所：野菜花き試験場佐久支場 場内圃場 品種：「優黄」 定植：8月18日

区制・面積：1区12.2㎡ 54株/区 3連制 対象病害の発生状況：中発生

処理方法：9月8日、15日および23日の3回、所定濃度の薬液を10aあたり300Lの割合で散布した。

調査方法：10月15日に各区の24株について、発病の有無を程度別に調査し、発病株率および発病度を算出した。

(2) 平成21年の試験は中発生条件下の試験となった。本剤の1,500倍液は、対照薬剤のプロポーズ顆粒水和剤の1,000倍液と比較して優る防除効果であり、無処理と比較して高い効果が認められた。薬害は認められなかった（表2）。

表2 ハクサイ黒斑病に対するシグナムWDGの防除効果（平成21年、野菜花き試験場佐久支場）

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株率 (%)	発病度 ^{a)}	防除価 ^{b)}	薬害
シグナムWDG	1,500	40.0	1.7	0.5	98.5	なし
プロポーズ顆粒水和剤	1,000	40.0	53.3	21.7	35.4	なし
無処理		40.0	83.3	33.6		

a)、b)は表1と同じ。

試験場所：野菜花き試験場佐久支場 場内圃場 品種：「優黄」 定植：8月17日

区制・面積：1区12.0㎡ 50株/区 3連制 対象病害の発生状況：中発生

処理方法：9月28日、10月6日および13日の3回、所定濃度の薬液を10aあたり300Lの割合で散布した。

調査方法：10月20日に各区の40株について、発病の有無を程度別に調査し、発病株率および発病度を算出した。

6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

野菜・花きおよび畑作物の新規農薬等の効果試験、平成20、21年度（2008、2009年度）、民間受託